

通訳案内士試験道場 韓国語で学ぶ日本⑨東北

遠野

- ①雪女はもっばら（一様に）身の毛もよだつほどのぞっとする吹雪の化身としてかかれてきた。
- ②異様な/ありえないほど真っ白なその肌は吹雪が吹くのが透けて見えるほどだが、
- ③「西遊記」の中に登場する「沙悟浄」の姿形をした、川に住む妖怪
- ④背中には亀の甲羅があり、口はアヒル（鴨）のようで、頭には水のたまった皿のようなものがある
- ⑤足をつかんで引っ張り水に引き込む（おぼれさせる）が
- ⑥灰の上に小さな足跡をつけたり、真夜中に糸車をまわして音を出したり、台所の隣の部屋で声を出して遊んだりもする。
- ⑦座敷童子は福をもたらしてくれ、家の盛衰をつかさどる守護神としてみたりもするのだ。
- ⑧異常気象について関心を持つ人のなかにはどうかして「地球を救おう」という人も増えているが
- ⑨「科学的なモノサシ（尺度）」だけで自然現象をはかるのではなく目に見えぬものを捉え

三陸海岸と東日本大震災

- ①ぎざぎざの（入り組んだ）海岸線
- ②このうえなく変化（バラエティ）にとんだ自然の造形美は、壮大という他ない。
- ③マグニチュード9を記録した大地震に東北地方が見舞われ、地は裂け、
- ④専門学校の卒業式会場の天井が落ち、出血多量で死亡した人も数人おり、また東京湾の埋め立て地では地盤が液状化し、家屋が陥没した。
- ⑤足止めを食らったあげく、しかたなく歩いて帰宅したため、足が棒になった人
- ⑥乾パンなどを買いだめしようと皆が押し寄せた（殺到した）ため品切れになることも多かった。
- ⑦想定外の大規模な津波が押し寄せて堤防も切れ、川の水も渦巻く濁流であふれた。
- ⑧「水魔」という言葉さながら水害が起こり、家屋も流され、反対に船が陸地に乗り上げた。
- ⑨なすすべもなく、着のみ着のまま、大慌てで、それこそ命がけで避難しても、多くの人々が生き別れにならざるを得なかった。
- ⑩その信じがたいほど恐ろしい光景にわが目を疑い、思わず目をそむけてしまった。
- ⑪危険を顧みず
- ⑫若くして使命を果たし壮絶な死をとげた遠藤さんの気高い（尊い/崇高な）行動には胸が痛む。
- ⑬危ういところを（紙一重のところ）命拾いした（命からがら助かった）被災者たち

- ⑭泣き叫ぶ子供ら
- ⑮悪臭が鼻をつく体育館など
- ⑯土砂に埋まった家に生き埋めになった家族を探しに行くのだが、遺体が見つかったも見つからなくてもがっくりとうなだれてその場にずっと立ち尽くしたり、
- ⑰いつまでも虚脱感（脱力感）にさいなまれ、悲しみに打ちひしがれたり、涙に明け暮れる日々を送ったりするわけにもいかない。
- ⑱いつまた余震が来るかもしれず、みな戦々恐々と（びくびく）しながらも、働き口もなく、スズメの涙ほどの補償金や不定期の義捐金をもらい、その日暮らしの生活をするしかなかったのだ。
- ⑲家財道具（生活必需品）一式がそろっている宿舎など、被災者の受け入れ先もあるが、異郷（よその土地）でくらすよりも
- ⑳筆者は宮城県の被災地を訪れたが、ブルドーザーで地ならししただけのままで、道の両側には瓦礫がうず高く積まれた光景が広がっていた。
- ㉑生々しい傷跡（爪痕）
- ㉒市街地は惨憺たる瓦礫の山と化していて、見るに忍びなかった/直視できない/目も当てられぬ。
- ㉓殉職した遠藤さんに弔意（追悼の意）を表すための祭壇

宮沢賢治

- ①死（不治）の病だった結核のため 37 歳という若さで亡くなった。
- ②生前の執筆活動
- ③ファンタジックな作品ばかり書く無職の男
- ④文系、理系
- ⑤質屋
- ⑥利益を搾取して（しぼりとって）成り立っているという事実にはひどく悩まされた。
- ⑦一族（家）の荣誉/名誉/ほまれ
- ⑧時折我を忘れて没頭しなければ気が済まぬような馬鹿正直（生真面目/頑固）な息子
- ⑨野良着（作業着）を着てやる気満々で鎌などで草刈りをしたり斧で木を切ったり、大工仕事をし、家畜小屋や菜園で農民と全く同じ生活をしたのだ。
- ⑩農民出身ならばともかく（まだしも、いざしらず）
- ⑪並大抵の苦勞ではなかった。
- ⑫田植え機
- ⑬口先だけの机上の空論
- ⑭骨身を削る苦勞をした。
- ⑮田舎に深く根をおろしながらも、井の中の蛙で終わらず、
- ⑯日本の帝国主義がのさばり（横暴をふるい）、「満州国」という傀儡国家をつくって国

家領土を膨張させ、

- ①閉ざされた、「自分で自分の首を絞める」ような日本社会
- ②生きとし生けるものすべてが兄弟で、異質な（自分と異なる）人物たちと偏見にとらわれず付き合う（心を通わす）理想社会
- ③心の支えだった実の妹
- ④彼の足跡をたどって

石川啄木と崔承喜

- ①類は友をよぶ、といおうか、
- ②視野が狭く/偏狭で民衆の生活とかけ離れた、観念的な「短歌」
- ③庶民の喜びや悲しみのこもった民衆的な傾向
- ④借金で首が回らなくなった彼は知人に嫌がられたり/疎ましく思われたり相手にされなくなったりし、疎遠になることも少なくなかった。
- ⑤故郷の山や川を懐かしみながらも故郷に錦を飾ることのできない純粋な農村青年の心を表した作品群は、今でも読者の目頭を熱くする。
- ⑥黒々と墨を塗り
- ⑦扇の舞、僧舞、巫女の踊りなど、朝鮮民族の魂をこめた踊りを通して、終始一貫そのほこりを世界に知らしめた類まれな（まれにみる）踊り子
- ⑧綿々と続く/伝わる民族の魂を究極の踊りに高めようという使命（ライフワーク）に燃えた本当の芸術家だったのだが、
- ⑨石川啄木の詩を明けても暮れても（寝ても覚めても）覚えるまでこよなく愛読していた少女時代
- ⑩失われた朝鮮の美しい山河に対する胸の張り裂けそうな想いにまで高めた舞踊家

会津

- ①陰気で（暗く）保守的な傾向
- ②正式に発足した
- ③国事を任せられるのは
- ④「軍事境界線」が引かれた
- ⑤恩をあだで返して
- ⑥飼い犬に手をかまれる
- ⑦呉越同舟/とりあえず一緒になる
- ⑧醜態（見苦しい/無様な姿）をさらすわけにはいかぬ
- ⑨のろし
- ⑩生まれ変わって（来世）も会津で会おう
- ⑪涙を吞んで

- ⑫お茶の間に涙を誘っている。
- ⑬一方的に/偏って構成された政府
- ⑭東北出身というのが立身出世の邪魔（妨げ）になり、じっとこらえてその辛さに甘んじるしかなかった。
- ⑮カリフォルニアにまで移民に行くなど、バラバラに散らばり住むようになった。
- ⑯無性にうらめしくその辛かった暮らしや、それを乗り越えてきた逆境の歴史を切々と訴えていた。
- ⑰婿や嫁になる人が山口県民だとしても人に言えないほど
- ⑱士族の息のかからぬ（影響を受けぬ）平民宰相

韓国語で学ぶ日本⑨東北 単語表現帳 氏名

① ^{もつぱ} 専ら/身の毛もよだつ/ぞっとする/吹雪	
②異様なほど真っ白な肌/④亀の甲羅	
⑥糸車/⑧異常気象/地球を救う	
⑨科学的な尺度だけではかる/	
⑨目に見えぬものをとらえる	
①ぎざぎざな/②マグニチュード9/	
②地震に見舞われる/④専門学校/出血多量	
④埋立地/陥没/⑤足止めを食らう/帰宅	
⑤足が棒になる/⑥乾パン/買いだめ/渦巻く	
⑧水害/家屋が流される/⑨なすすべがない	
⑨着の身着のまま/大慌て/命がけで/生き別れ	
⑩恐ろしい光景にわが目を疑う/目を背ける	
⑪危険を顧みず/⑫若くして使命を果たす/	
⑫尊い行動/⑬紙一重のところで命拾いする	
⑭泣き叫ぶ/⑮悪臭が鼻をつく/⑯生き埋め	
⑯死体/がっくりとうなだれる	
⑰脱力感にさいなまれる/涙に明け暮れる日々	
⑱びくびくする/働き口/スズメの涙の補償金	
⑱不定期の義捐金/⑲家財道具一式/被災者	
⑲よその土地で暮らすこと/⑳被災地	

⑳地ならしする/がれきがうず高く積まれる	
㉑生々しい傷跡/㉒見るに忍びない/㉓追悼の意	
①死の病/②生前の執筆活動/③ファンタジックな	
③無職者/④文系/理系/⑤質屋/⑥しぼりとる/	
⑥事実にひどく悩まされる/⑦一族の栄誉	
⑧気が済まない/馬鹿正直/⑨やる気満々で	
⑨鎌で草刈りする/斧で木を切る/大工仕事する	
⑨家畜小屋/菜園/⑩農民出身ならいざしらず	
⑪田植え機/⑬口先だけの机上の空論	
⑭骨身を削る苦労/⑮井の中の蛙/	
⑯横暴をふるう/ ^{かいらい} 傀儡/膨張/⑰閉ざされた社会	
⑰自分で自分の首を絞める/⑱異質な/	
⑲心の支え/⑳足跡をたどる	
①類は友を呼ぶ/②民衆の生活とかけ離れた	
④借金で首が回らない/嫌がられる/疎遠になる	
⑤懐かしむ/故郷に錦を飾る/目頭を熱くする	
⑥黒々と墨を塗る/⑦終始一貫/類まれな踊り子	
⑧究極の/使命に燃える/⑨あけても暮れても	
⑨こよなく愛読する/⑩朝鮮の美しい山河の比喻	
①陰気な/②正式に発足する/③国事/	
④軍事境界線が引かれた/⑤恩を仇で返す	

⑥飼い犬に手をかまれる/⑦呉越同舟/	
⑧醜態をさらす/⑩生まれ変わっても/	
⑪涙を呑んで/⑫お茶の間に涙を誘う	
⑭出世の妨げ/苦難に甘んじる/	
⑮バラバラに散らばり住む/⑯無性にうらめしい	
⑰つらかった暮らし/乗り越えてきた逆境	
⑱切々と訴える/⑲嫁になる人/⑳息のかからぬ	